へ13
2483
26

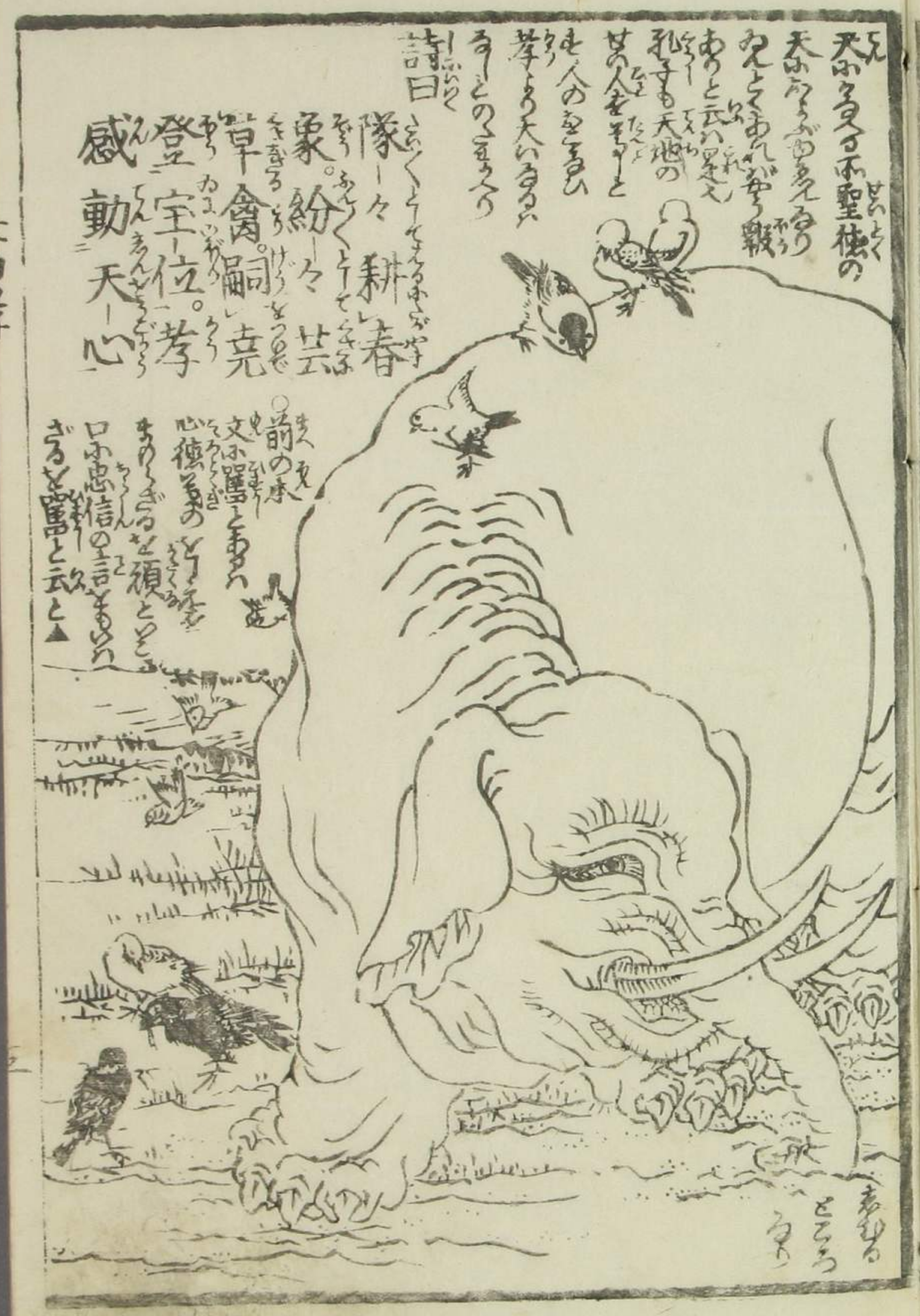
へ遠13特
2483
26

夫孝は百行の基にして上天子より下庶人に至るまで孝を以て本とす
忠臣は孝子の門に求むると云り孝経に父子の道は誠に天性自然の道
にして親は子をいつくしみ子は親に敬ひ事て孝を守り奉養すべしと
云り幼より物学びさせんと思ひ先孝道より教へべし諺にも烏に反哺の
孝あり鳩に二枝の礼儀ありと云況や人間に於てをや唐国にては孝子の
詩を作り児童にも常に是を唱歌しむと云り其詩古くより孝国に伝へて
是を二十四孝と云上は舜帝文帝と始め下は黄香江革に至迄
貴賤の差別なく其身に応じて孝道を尽せり支を皇に教の一助とす
然れども其他に異端なきにあらず舜の耕すや禽獣の助をなすと
云り其徳行を以て過ぎし郭巨が子を捨んとせしに不慈に埋んとて
て黄金を得たる孟宗が時なりざると諫めて竿を抱て食さしめし呉猛
が赤裸にして蚊に苦むと双親の患ざる刺子が鹿の皮をきして鹿乳を

得んとするに董永が天女の妻を得る王祥が氷に臥して魚を待の如き各其理論ふかくして古説を稱するに似たれども從來此一段を以て孝道を然りとするあらんに孝子の至誠常の行ひ志の篤実一段を以て推しうる美賞すべきの教あり点を捨て其義を取時は神明霊感あらして得ざるを得時あらざるを食して病を癒す皆是天の道に恪し神霊の感得冥助ふるものなれば凡慮の及所にあらず徳行を以て克孝道を務む者は神の霊験必あるべし美詩唐夫人の如き姑に孝と尺せるは稀なる婦姑孰嫁として姑に必中あるべき俗情なるを怠ず供養あり孝行なる児女の数の捷徑なる点の虚実は暫措て孝子の名千載の美談となること疑べ改ても猶勤免れ孝行の道也ぞありける

筆耕の窓下ふかく

无名翁誌



天子の聖德の天下に及ぶを見て
象と共に耕す春の
あとをあれば
あり
と云ふは
孝子も天地の
其人を感ずと
も人の孝を
孝とする天に
ありとの
詩曰
隊々耕春
象紛々芸
草禽鬧亮
登宝位孝
感動天心

○前の歌
文は曰とあり
心德の
まのぐるを須と
口は忠信の言
ざると曰と云と

▲舜の象と共に耕すを
おどろき父母これをいかで
あはれを
ん
耕作を助け
兄の傲
象と誤り
過ぎ及の
美稱
左傳
の書
頑嚚
帰せ

漢の文帝

前漢の文帝と申せしは高祖の代より四代の賢君と譽れ恒とりける高祖の太子にて母は代王の妃なり天子の母きさきとなりて文帝と生れ給ひ母堂を尊び太后と申せし太后の天子の母きさきとなりて文帝と生れ給ひ文帝つねに母の太后に美食をすすめ給ふ帝の母きさきとなりて孝行あるべきなり

仁義をもとゝ孝行

陳平周勃位を帝に奉る

漢の文帝と申せし上天子の下庶人に孝行のたゝるまでありしなり

詩曰

一孝臨天下。魏々百王。漢廷事賢母。湯藥必親嘗

孟宗

晋の孟宗のちに孟仁といふ字を恭武と号す江夏の人なり三国の呉より晋の代までを経たり呉の時より李肅といふものにつきて学問を究めつねに孝行をつくせり晋の武帝の時監池司馬の官となれり孟宗池をつかさどりそのまゝ魚をとる身の事をつかさどりけるに母の方へおくりしが母これをうけずして汝魚をとる役として嫌疑をさけぬとてかへしけるあまねく世の人其賢を戒めし孟宗幼き時父にはなれ

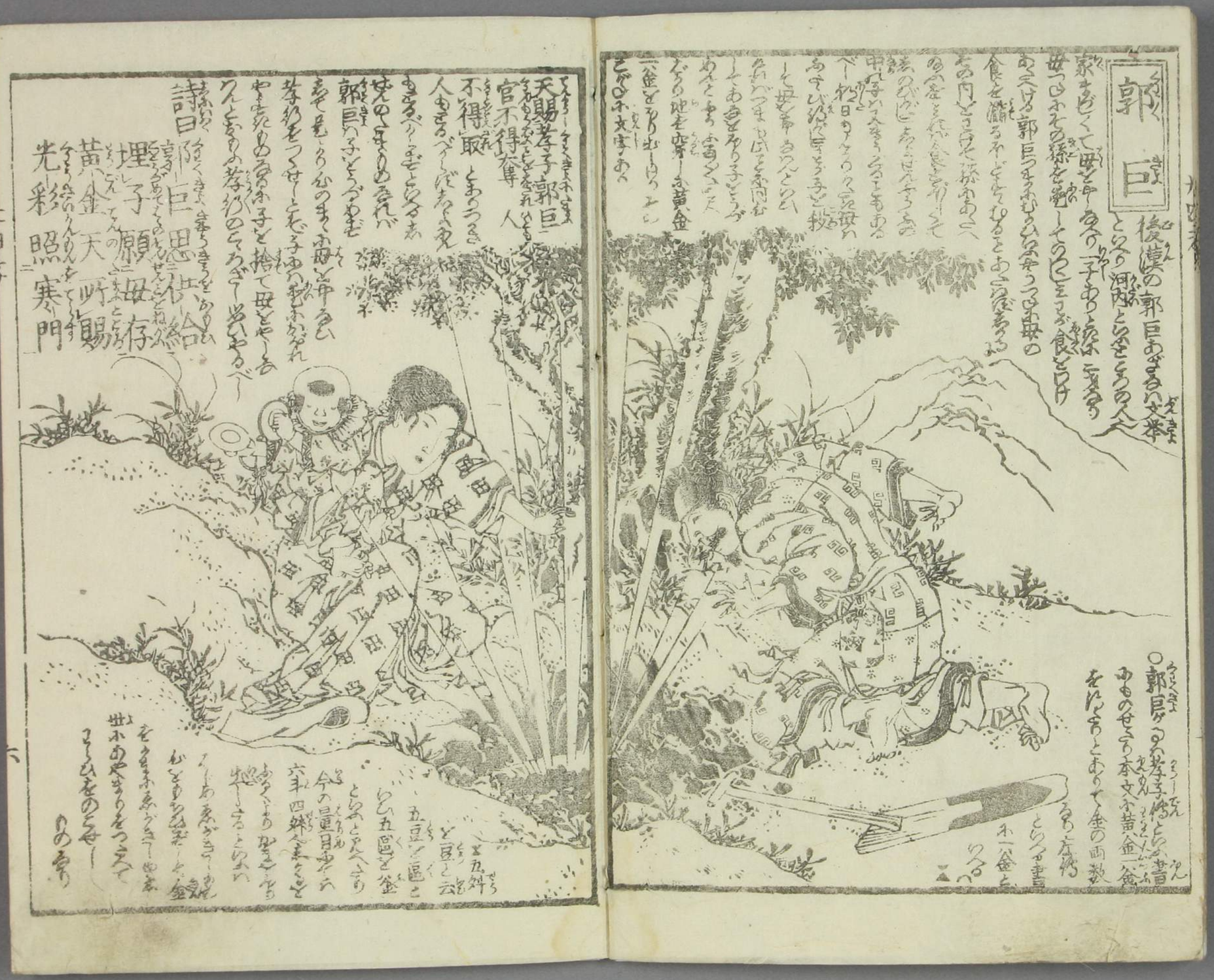
○孟宗は呉の孫皓といふ人につかへて司空となる三公の一つなる高官にのぼりけるも孝の徳大いなるとかくのごとし

孤となり母は老衰して病身なりしが冬のころ筍を好みける事の頃なれば寒に至りとありて其寒天大雪なり地は根深く雪に覆れ時なれば筍のあるべきやうもなく孟宗は母の望をかなへて食させんと竹林にいたり天に祈り泣ければ孝心の深きを天も感応ありけん時ならぬ筍五六本生じける孟宗よろこびこれを取て母にあたへければ喰してそのち病もいえけり

詩曰

淚滴朔風寒
蕭蕭竹數竿
須臾春筍出
天意報平安

○楚国先賢傳に宗求むるの母竹空に泣て筍とらると本文に雪中のことなしたゞ雪を画て寒気のおもむきをあらはせるのみなりそのころ心をえたる巧なり



郭巨

後漢の郭巨あざなは文舉
とゝの河内とゝなをとゝろの人
家まづしくて母と妻と一子あり
母つねにその孫を愛し
その食を奪ふ郭巨ひそかに
思ひけるは母の
食を奪ふゆゑ
その門とゝろに孫あるゆゑ
その子をうばひ
とゝろにうめ
ばべつの
子もまた
生まるべし
母の
食を奪ふ
ことなし
とて
子を
うめ
ばべ
し
とて
穴を
ほり
ける
ところ
に
黄金
一釜
を
得
て
ゆ
ゑ
に
富
む
人
となる

○郭巨が孝子傳に書
のものせる本文に黄金一釜
をえたりとあるは金の両数
なるべし

天賜孝子郭巨
官不得奪　人
不得取　とあるべき
人もまるべしとゝるあ
ばの子をうめ
郭巨が子をうめば
孝行をつくせしゆゑ
やまいをのがれ
くらしよかるべし

詩曰
陰徳供給
埋子願母存
黄金天所賜
光彩照寒門

五穀
豆と云
五豆と臣と
らし五臣を釜
とゝるとゝへ
今の量目
六十四銖
なるべし
しかるに
ゆゑに
をもて
世ホのやうをつえて
こゝろをのこす
りの事

楊香

楊香とゝ号す女へ晋の代魯國の人楊豊と云人の女なり年十四の时田園に耕地ゝ出栗とらんとするゝ猛虎きたりて父を引きゝ去て四人ともに楊香女あとを追れども一すのきれもの也されども日ごろ孝心ふかきゆへにたゞ死をもらさるべしとて虎のひらんびゝとの口に父をたすけてこれをうばへとゝ云ども虎はたけき所ゝれども此孝心感じてや楊豊をはなしさりてゝ山のうしろ虎口をのがれてけん父をうばはれて孝心の徳ゝよるべきなり

詩曰

深山逢白額
努力搏睍風
父子俱無恙
脫離鋏口中

此詩結の一章異同あり

脫身絶虎口
白額睍風ともゝ虎の異名
恙ハ人を害する虫と
昔ゝ孝ゝ女ゝ孝ゝ女ゝ
孝ゝ女ゝ孝ゝ女ゝ
孝ゝ女ゝ孝ゝ女ゝ

○楊香ゝ其所の大守孟敏ゝ之とゝ人ゝの貴をきて大ゝ稱歎ゝ楊香ゝ来あきらをもて孝行を尽さゝるとも

董永

後漢の董永字は延年といふ家貧窮にしてちさき時母におくれ父と二人老て足たゝぬ車にのせて田のあぜの木かげにつれゆきおきてやしなひけるがその後父におくれあまりのちんせんをかりて葬礼をつとめける父死して後銭かりることあるぞ期日にいたりて主人につかへて一生の身をまき入れて絹を織るといひけるにかの女に逢ひてつれ立ち夫婦となりて一人の美女にあひたり此人はつまになり申さんとて主人の田家にゆきけり

ろく今日をとらんとゆく人にあひたりされば主人にさんとうをさしけれども其身をうりてつかへて主人の女なり女ひとりあひけるをつれ来りければ主人ふしぎにおもひ此女は絹三百疋おりしならばかへすべしといひけるにかの女一月のうちに絹三百疋を織りをはりてなれば主人おどろきて夫婦ともにゆるしけり

詩曰

葬レ父貸二方兄一
天妃陌上迎
織レ縑償二債主一
孝感蓋知レ名

ちちをはうむるにおやけの金をかる
てんぴはくじやうにむかへ
きぬをおりてさいしゆにつぐのふ
かうかんなをしらる

方兄は銭の異名人あざけりて孔方兄とよびけるのぞしといふなり

○斯て二人ともつれくらせしが錦をおりしもの女のもとにのぼりければかの女董永にいひけるはわれは天上の織女なり汝が孝心をかんじて仮に下界に来つて助力せしなりとて虚空に捨てのぼりけるとなん

○廿四孝董永の事は漢書にも見えず唯日記故事

紫衣の事何れものせられども古師皇帝大同小異あり

曾參

周の曾參字子輿とゝの曾子ゝ魯國の南武城の人つよて至極の孝行ゝ魯國の南武城の人元祖の高祖ゝ曾子ゝ孝行ゝ孝經ゝ孝經ゝ曾子ゝ遊説の後ゝ山ゝ木を取ゝ母ゝ

詩曰

母指絶方齧
児心痛不禁
負薪帰未晚
骨肉至情深

王裒

晉の王裒ゝ營陵ゝ父ゝ父字ゝ偉元ゝ云ゝ父ゝ王儀ゝ晉の

詩曰

慈母白頭雷
氷魂病夜臺

▲阿香時一震
到墓廻千回

阿香ゝ雷の異名

吳猛

晉の吳猛字は世雲と云濮陽の人へ
少きより孝行の性あり父母
夏ふかくれども家貧ふして蚊もの
よろづ防ぎたまふ事なりけれども衣を親
あるごとふるてそのうちふ一故ふ
あるべきくらべてくらべ親のくへ
故のうえとをれつる蚊を
よりもたくらべ故をそれむるまつる
ぞとるの父母死してのち丁義
父母仙人ふ彬と云ふ仙
法をまなびるとぞまとふ孝行のあまり
志ふかくまふあまるの
詩曰
夏夜無帷帳蚊多
不敢揮恣渠膏血
飽免使入親闇

孝子詩

孝子詩 漢の代の廣漢と云ふ人の字は任
と云ふ人一人の母ありて孝
乃ちくまの孝子ぞ
とあるの事
母を江湖
もの水をこのあり魔氏
ぞとこの魔氏
雨つく
江湖へ
孝行の
母ふ
詩曰
舍側甘泉出
子能知事母
一朝双鯉魚
婦更孝於姑

○漢書曰
魔氏水
久しくあるく母水
孝子

朱寿昌

▲賞まるふあまるあの見神宗皇帝熙寧年中の宋の朱寿昌ハ天長の代の人なり父の雍及の奮ごとる寿昌が母いとう氏のむすめなりかの嘉の妬つよきがあるを不止ことをいぎ寿昌が七歳のときこれをのこして他のもの(おかしづき)こうまを出ぬ長して神宗帝ふつゝ人なれども産の母とやもぎて一日も孝ふかきこゝろ絶ぬ官祿をもて母とうづのを出つゝ不奉の国ゆえ[illegible]母をもとめ[illegible]教ひて孝とゝ[illegible]

詩曰

七十歲生離母。參朝
商五十年。一朝
相見面。一喜
氣動皇天

▲[illegible]孝の極▲

詩曰

繼母人間有
王祥天下無
至今河水上
片臥冰模

丁蘭

丁蘭は後漢の代の人なり親たとき
三歳ばかりなれば父母に孝をもつて仕ふ
母は指頭のくるまりあり生れて八
歳にして父母のなくなりしかば
のちに丁蘭あり氏なをもつて
ざるとしるしのなるつまれず
父母のすがたをもつてつくり
母のかたちをつくりて孝
をもつて蘭をもつてなまえ
詩曰
後漢木為父母形容
朝夕奉養如子一
性名要孝其親

これをもつて父母の水のうへ
にうつる形のごとくして年をかさ
ねしとなりの又ある時けの母
をもてあそんでをきてこれを
祥にこれをこたへんと思へば雀
四五十羽ばかりとびいりこれを
まもりて母おそれをなす又ある
時母おそれをなす故又ある時
けの母
祥ふかりしとぶるあの
しとふかふかとうつきて
ある時母つひに
祥りをなす
五六才の時母祥とともに
うつくしまれの兄ふかふ
ふかとうけり祥つまり
のちふかの見もまをむく
ふかふかの孝のごとくあり
ちに母祥をもつてのせんと
せしかばあとの賢をうつ
へんとするときそれ母をあ
をそれをすてさりこれよりけの母も

詩曰
継母人間有
王祥天下無
至今河水上
片臥永摸

丁蘭

丁蘭は後漢の代の人なり 稚きとき二親におくれぬれバ孝をつくさんことかなハず 父母の恩をおもひ つかへることをおもへど 養育の恩を報ずることかなハざれバ 木をきざみて父母のかたちをつくり 生ける人につかふるごとく孝行をつくしける 丁蘭が妻これを疑ひ 針をもて木像の指をさしけれバ 血ながれ出たり 丁蘭これを見ておどろき 妻を出しけるとなり 丁蘭が孝心ふかきゆゑ 木像もかくのごとくなりしとぞ

詩曰

刻木為父母形容
在日身寄言諸子
姪各要孝其親

唐婦人

唐婦人は唐の代の名士にして博陵の人なり 山南西道の節度使と云官にありし崔山南との曽祖母は長孫夫人とて老年にして歯一本もなし 唐婦人は朝ごとに沐浴し堂にのぼりて乳をのませ養ひけれバ 数年の間ものを喰ずといへども 気力おとろへず すこやかなりけり 長孫夫人老病にかゝり 一家のものをあつめて申けるハ 此婦人の恩をむくひがたし 子孫の婦も此婦のごとく孝行あれかしとねがひてうせけるとなり

詩曰

孝敬崔家婦乳姑
晨盥梳此恩無以
報願得子孫如

老菜子

老菜子は周の時の人なり年七十にして父母ともに存ぜり孝心つねに深くして七十の老人なれども子どものごとくふるまいて父母を喜ばしめたりしを世てふ三孝ととなえ

詩曰

戲舞学嬌痴春風動彩衣双親開口笑喜色滿庭園

閔子騫

周の閔損あざな子騫孔子の弟子なり

その母一人ありて子騫を愛せざりし父継母となりて子騫を虐せり継母二人ありて冬芦の花を綿にして子供を暖かなるに子騫のみ芦の花を綿にしたる衣を着せり二人は綿にて暖かなるに子騫のみ芦の花にて寒しとうらみ父車をひいて子騫をのせたりしが子騫の手袖寒さに堪えずして車をとりおとしたりしを父これを見て継母のわるくせを知りて継母を去らんとせしに子騫の母いわく今母ありては子ども三人ひえこごえるのみなれども継母去りなば子ども五人ひえこごえるべしと子騫の母はかくまでもこころざしを深くせり

詩曰

閔子有騫郎何曾恐晩娘尊前留母在三子免風霜

剡子

周の剡子は伽耶国の人なり
その母まれて至孝の心
ふかく父母年ろうてよわくなりぬれば
眼とりつこの麻の乳をそそりれども
あえとをねがいなるまえ子孝のあつき
のあまくらして麻のこいを見ずまきの
山ふかのこれあるのおそれ雨ふる田をそのとき
めんとを猟人これをこれを失
とつくまこぶ射んとを割みかと
ろ死されいまとの麻ふあっぱてーかくろ
ちくて腑のそまるふあっのちとろとろまわ
せえとのくのとくまるとまるれので
ちちくとろふさくまるりめんと
云れれるとろとのあるふあっ
さるとるくてその孝心とにける
かくるふるきの矢あるとのれて
あるのちくをのとあるふ
あくんるも天ていそのとろの
めつきをとえー

ゆくるうり

詩曰

親老思鹿乳身
掛裙毛
衣若不
高聲語
山中帯
箭帰

黄香

後漢の黄香
あざなは文強と云
江夏安陸の人なり
九才のとき母おくれ
父ひつくて孝心ふかし
あるとき父の床の
うちをあたためそめ
茅のあてまりをとりてとと
のうちをあたためり
孝かをもつ父のことをもむ
和帝ふそうのあ天子
表文おりき
むふかんをもちしあまさ
ちくびをあらて孝子の
名をあらわすとなり

詩曰

冬月温衾
夏炎天扇
枕涼
教児童
知子職
古一千
黄香

庾黔婁
庾黔婁庾姓黔婁字子貞南齊時人也官長沙郡丞
婁子貞病篤醫曰當食生魚
婁子貞病篤醫曰當食生魚
詩曰
到縣未旬日
楮生遂
疾深願將
身代死
望起憂心

蔡順

漢の蔡順い字と君仲とい汝南と云ところの人なりあさまして父はとられ母はつかて孝行なりあるとき元帝の王莽と云ものまりの間漢の成帝の時男孝元白手后の男ゆえ王莽と云ものの子大平帝の外戚の孫子男の天子の位ちゝとなれ天子となるとはおもて天下大いふをれ天ふつきうあり拾はわやきとおもて為まるそこ夏あるれる田まのもを飢渇ふかぶ人をもて一死を

○蔡順かあるの母まりくのをざりうおりを宅おるるこをおるしおるを天

蔡順桑つをて出るとき椹とろふるのを二つふを椹とろふるのを二つふをもてこれを母に与ふるのふをもて母おのき日おのをる事なるを有とこれをのをもてふとをるかり

さるの帝ゆるの実を二ツふるを西を天蔡順をもて云ふるくをもてふを母おをもへんをめくまをもおをもをもをもとれいるをもく

まるんをもてをもをもをもとをもて母を中をふをりをもをれ赤眉の賊をの孝行ををもをを母に米二斗を牛のををもをそをもをを

詩曰

黒椹奉二萱闈
啼飢伊満衣
赤眉知孝順
牛米贈君帰

黄香八歳

黄香は江夏の人なり。官るゝ平生親に仕へつゝて孝をつくしその身なきこゝろあるのみならず人もあれども母の大恩にこたへんこゝろのあるべくつゝしみをもつて孝をつくすこゝろざしをもつてその日をすごすべきなり。

詩曰

貴顕聞天下
平生孝事親
汲水消溺器
婢妾豈無人

江草

江草は後漢の氏の人なり。おさなくして父よりうまれ数負のあるひとり母のみあるのみなり。

詩曰

負母逃危難
究途賊
犯頻哀告
俱獲免倩
力以供親

仲由

仲由ハ周の代の人孔子の弟子也あざなを子路又季路といふ孔子に孝子といふべき人ハ由力なとのたまひし孔子の弟子ハ大勢ありし中に仲由ハ先非をあらためて親に孝行をつくし若きとき親のためにつねに藜藿を食して百里の外より米を負て父母を養ひける親死して後に楚国の政務をあづかり百乗の車をつらね米を積ことかぎりなく親のいまさぬ時をかなしみ藜藿を食ひ親のために米を負んとおもふとも得べからずと嘆ける子路たんじて孝のいたりといふべしその後衛の乱に死せりといへども孝の道を尽せし人なれば今の世の人も孝行の鑑とせりける

鍾ハ六斛四斗なり又八斛とも云斛ハ十斗といふ死ハ其の数量の廣大なることをあらハすべし

詩曰

負米供二甘旨一
寧辞二百里遙一
身栄親已没
猶念二旧劬労一

此草紙ハ異朝の孝行に勝れたる人を文章にあらハし詩一絶を誌し録と題し古く世に伝へたるものあるを其本文を省略し稚き女児のみに絵草紙とうつしたるもの也俗に二十四孝と云ものあれども其伝説に異同あり江革と仲由とを省て別に張孝兒弟田真兄弟の事を載せたるもあり倶に伝へきたりて何れか是非をしらず故に巻末にあらハして二十四孝の別伝とするものそ

張孝張禮

張孝張禮の兄弟人世間飢饉のとし老母を養ひ自の腹
藥をもとめ老母の腹
れ山に至る所に飢疫れる賊あり
とりの米粮をもてのがれ
とあるに天寸の藥をあたへてのちこれ
きこゆるにその内なのまうふ
ふたりともに一そくまでもこゆるとのいて
久ふかくの母ふるをあつ又とも
山わのくる兄の米粮をもてあたうの
山に至りてこれをもてあたうの張禮を
たもけてこれをもてあたうの
あるそのうれいをなしの賊
二人を殺米二石俵一袋と
あたへ孝義をもふかくこれをとる
こそきてのめんにけるとぞ

詩曰

偶値緑林児
代烹云瘦肥
人皆有兄弟
張氏古今稀

甲眞 甲廣 甲慶

概して人の兄弟親和なれてのも家の
賊のりうるもの
ゆるそ荆樹をそえ
さるさえの小樹は枯るるなれ
ばふ一本をもふかひもそこ
とこの者ども代てしこ
んともそこ一もの夜中
久ふ荆樹枯れ
ふれ兄弟三人
ふれをそ歎ふ
久ともきそうんと云ふ
て枯れ又ハとして理をこ
まるもそこさ
けれがやてびのとのどくえ
さえてるとこ三人の
けれ木のきてけるそ
ふの名まぐるぐ
とをとて甘ともとも

詩曰

海底紫珊瑚
春風花滿樹
群芳總不如
兄弟復同居

前にあるも張孝張禮は其祭順が事に似たされども兄弟死をあらそふ事を
のべて孝の志薄し其義を稱するにたるべきものを二十四章と省ても可ならん且田
真田廣田慶の兄弟三人ましも孝志の事にあづからず双親没して后家を賊
三人各分ちんと云甚非義非禮なるは愚の甚しきものなりまでに惣領ハ乃
田真にあり一人の弟に示して各身を立家をつぎ永く繁栄して先祖の祭りを
なれば兄に心を用ざるは更に孝道の立所なく利欲に耽るのみにて二十四章に加入べく
そのものにはあらざれども古くより伝へ来るものなれば有繋に没るにもしのびなく倶に二十六
章となし東見記に載ところ毛利拙斎の廿四章孝行録廿四孝評松會貝梭の廿
四孝諺解其他坂行の物数多あれば彼を取是を捨ることをせじ只兒女あるに篤
孝の教を元立となしあるれば勧善懲悪の趣意をつまさんと敢て孝行の道
を守りぬべしと兒女衆へちなまちに絵双帋となして傍の一助となれかしと言

東都
書肆

一筆斎英泉補綴並画

芝神明前三島町
甘泉堂　和泉屋市兵衛版

豆州 青淵 …

豆州
青淵
修善寺